

# ともがき

2月号の2

HP <http://www.ed-tsuyama.jp/chusei-es/>

↑ 情報担当の田村先生が毎日更新しています

学校教育目標 夢をもち かしく やさしく 元気な子を育てる

立春が過ぎ、夜明けが早くなってきましたが、朝晩は、やはり寒い日が続いています。本校では、1月2月とインフルエンザの児童がいましたが、今のところ大きな流行には至っていません。引き続き、手洗い、うがい、マスク等の風邪予防に加え、水分補給、加湿、休憩時間の換気や業間なわとび等を実施します。



卒業式まで6年生は(今日を除いて)あと24日の授業日となりました。二度と戻れない小学校生活。ぜひ、友達や他の学年の人と楽しく、また中学校生活に向けて必要な力を必ず身に付けて卒業するという意気込みをもって、一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。



修了式までは27日で、1年生から4年生は学年が一つ上がる準備を、5年生は最高学年として6年生から学校のバトンを受け取るという心の準備をきちんとしてほしいと思います。



## 1月30日(水) 5年研究授業 社会科「わたしたちの暮らしを支える情報」

本校では、主体的・対話的な学びを目指して、「学びの共同体」代表の秋山芳郎先生に7年間、教えていただいています。自分の考えを初めにもって、グループで話し、自分の考えと比べて、考えを深める学習です。

今回のご指導の中で、特に印象的だったのは、「子ども達はそれぞれの家の常識をもって学校に来ている。それをもとに、意見を戦わせる。」という言葉です。「それぞれの家の常識」とは、普段その家庭でしていることや行動のもとの考えだと言われました。

日本各地の習慣や郷土料理などを紹介するTV番組がありますが、出演者は「これがあるのが普通」とか「よそにはないの?」と言っていることがあります。自分では当たり前と感じることも、他の人の話を聞くことで考えが変わり、深まることもあります。一斉授業の中で互いに刺激あって、向上できるといいです。



## 2月6日(水) 感謝の会 音読・暗唱大会

ボランティアでご協力くださった方をお招きして感謝の会を行いました。草取り、読み聞かせ、お飾りづくり、放課後学習、サツマイモ作り、稲作など学校の先生とだけではできない学習でお世話になりました。

1年間で延べ120人以上の方々にお手伝いいただきました。運営委員会の行事として行い、児童の代表がお礼のあいさつをしました。



感謝の会のあとは、図書委員会の進行で「第2回音読・暗唱大会」をしました。1年「たべもの」「ゆきがふる」2年「朝がくると」「生きているって・・・」3年「白ねずみ」「吉四六さん」「彦一さん」4年「雪」「宿題」「帰り道」5年「平家物語」俳句 6年「日本国憲法前文」

それぞれの学年ごとに練習を重ね、体育館中に聞こえるように発表することができました。感謝の会に来てくださった方々の感想です。

・声大きいだけでなく、きれいに発表できていました。 ・一人一人のせり

ふが長くなり、中学年だなと思いました。

・友達と合わせて、間を上手に取っていました。 ・俳句のあと、各自の感想が入っていたので、理解しやすかった。

・全員で言うところもひとつひとつ言葉がはっきりしてよく合っていて 一体感が素晴らしいと思いました。

## 平成31年4月18日(木)に 全国および岡山県学力・学習状況調査があります。

6年生が全国調査、3～5年生が岡山県調査を受けます。これまでは、国語A 国語B 算数A 算数Bで、年によっては理科がありました。今年度は国語と算数の2教科です。各教科45分の学力調査で、記述式の問題も出題されます。記号や番号の解答でなく、記述式になると、①誰が採点をして、読める文字で書く ②問われたことを答える ③文の主語述語がはっきり伝わるように書く ④正しい漢字やひらがなの表記ができる などが解答の大前提になります。

ふだん授業を見て回る際、特に高学年では、きっちりといねいな字でノートを書いていて、何の学習をしたか、わかりやすくなっています。学習内容を整理して、黒板に書かれたことだけでなく、感想なども、ところどころに書いてあります。わかりやすく、自分の学習の足跡としてノートを活用しているのは、とてもよいと思います。低学年からの積み上げの成果でしょう。



繰り返し、自分で工夫しながらノートに書くように習慣づけることで、下の学年の人にもわかりやすくノートを使えるようになってくると思います。

## 「プログラミング教育」

2020年度から新たな学習指導要領が完全実施され、「プログラミング教育」が取り入れられます。小学校でのプログラミング教育のねらいは、文部科学省「小学校プログラミング教育の手引き」に、



コンピュータに意図した処理を行うように指示することができるということを各教科などで体験させながら、

- ①「プログラミング的思考」を育むこと
- ②プログラムの働きやよさ、情報社会がコンピュータ等の情報技術によって支えられていることなどに気付くとともに、コンピュータ等を上手に活用して身近な問題を解決したり、よりよい社会を築いたりしようとする態度を育むこと
- ③各教科等での学びをより確実なものとする



と示されています。コンピュータを動かすプログラム言語を覚えたり、プログラミングの技能を習得したりすること自体をねらいとするのではなく、プログラミングを行うことで、①～③の力をつけるということです。

プログラミング教育では新たな教科ができるのではなく、これまでの各教科の指導の中で行ったり、教科外で行う場合も想定されたりしています。今後も、教職員の研修を深める必要があります。



本校の児童はやさしく、まじめな人が多く、将来も周囲の人に愛されながら働くことができると思います。もともともっていたり、各家庭で温かい愛情のもとで成長したりして育まれたよい気質を生かしながら、それぞれの得意なことや好きなことを仕事にできるといいです。また、趣味も楽しんでほしいと思います。

そのために学校では、子ども達のために何ができるのでしょうか。将来、どんな力がついていけば、子ども達がたくましく、自分をコントロールして、社会生活を営むことができるようになるのでしょうか。

「学校は勉強、勉強ばかり言うなあ」「世の中、勉強ばかりじゃないわ」というご意見もあると思います。

机についてする教科の学習だけでなく、知識をもち、それを活かすことができるように先人の知恵を使うのも大切です。世の中のことに興味をもつのも、まず、「知ること」が入口になります。

学級通信や「図書だより」「ほけんだより」などでも、子ども達にとって大切なことや役立つ情報を発信しています。上手に活用して、心身の健康とともに子ども達の成長を助けて行きたいと考えています。